

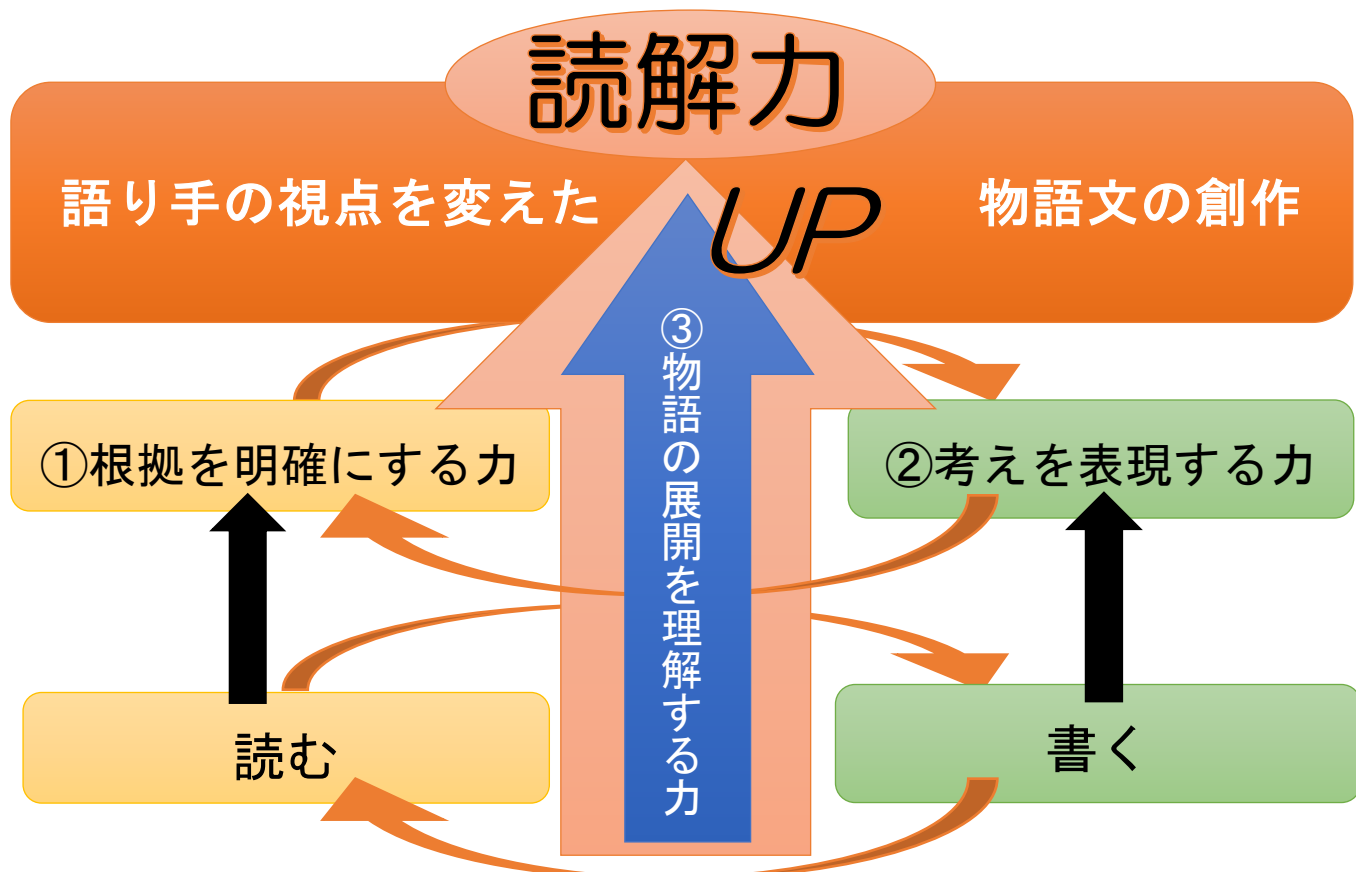
読解力向上を目指した授業デザインの開発：  
語り手の視点を変えた物語文の創作に焦点を当てて

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻教育実践開発コース教育方法分野(教職大学院) 公開日: 2024-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畠, 宏樹, 石上, 靖芳 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/0002000312">http://hdl.handle.net/10297/0002000312</a>

# 読解力向上を目指した授業デザインの開発

—語り手の視点を変えた物語文の創作に焦点を当てて—

本研究では、読解力を「①根拠を明確にし、②考えを表現し、③物語の展開を理解する力」と定義し、読解力向上を目指した授業デザインの開発・実践を行いました。「読む」と「書く」をつなげる授業構成を考え、「語り手の視点を変えた物語文の創作」に焦点を当てた授業デザインを開発し実践した結果、構成能力である「①根拠を明確にする力」「②考えを表現する力」「③物語の展開を理解する力」が向上したことが明らかとなりました。



## 目指す読解力の構成能力

### ①根拠を明確にする力

文章から根拠を明確に持つことができる力

### ②考えを表現する力

人物の心情を自分の言葉で表現することができる力

### ③物語の展開を理解する力

人物の言動が展開にどのように関わっているかを理解することができる力

静岡大学大学院教育学研究科

教育実践高度化専攻教育実践開発コース教育方法分野

# 1. 語り手の視点を変えた創作方略の授業デザインの開発

本研究では、「読む」（根拠を明確にする力）と「書く」（考えを表現する力）を結びつけた実践として、語り手の視点を変えた創作活動を活用した創作方略を開発しました。

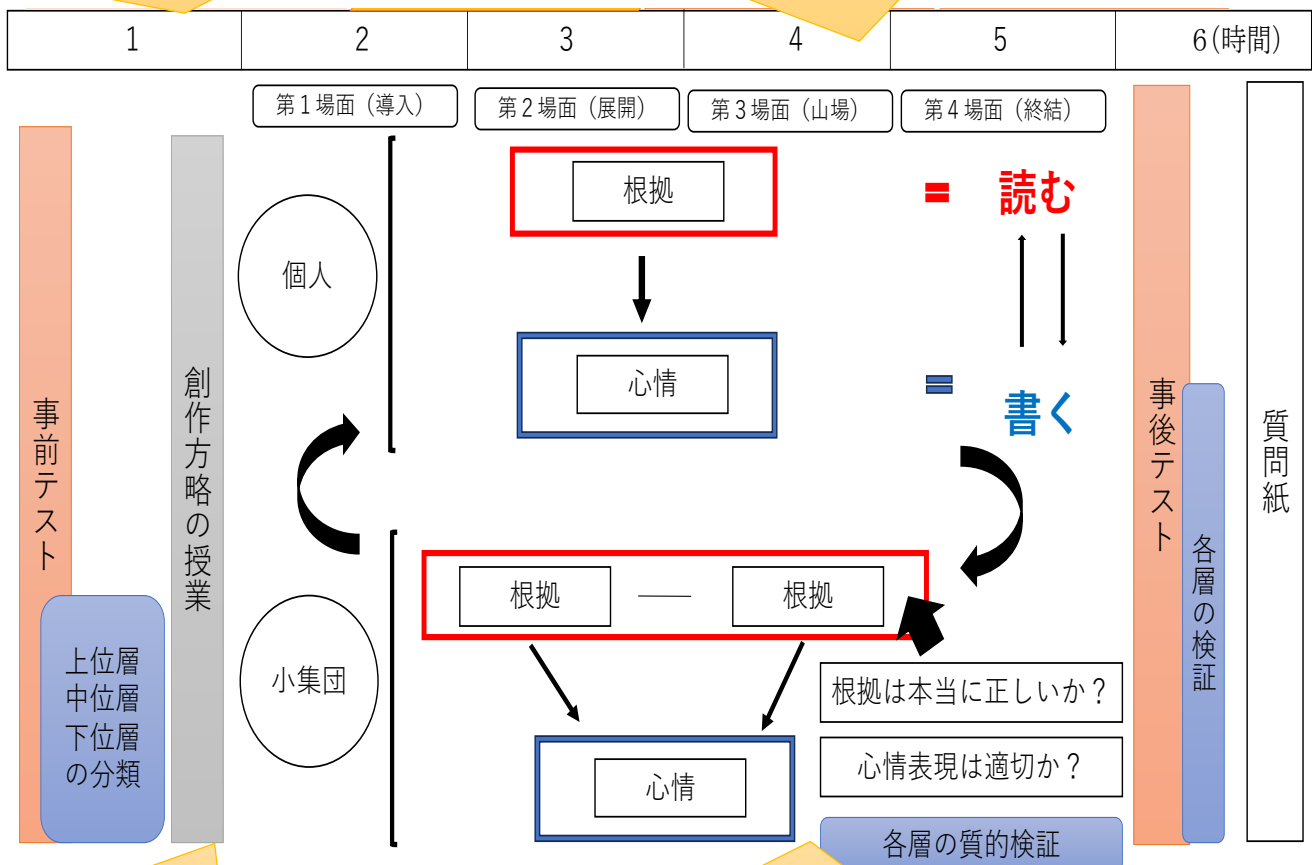
【本研究における創作方略】

語り手の視点を変えて「読む」と「書く」を繰り返すことを通して、根拠を明確にし、自分の考えを表現することができる読解力の向上につながる方略の設定。

## 読解力を育成する単元・授業デザイン（①～④を基盤に作成）

① 1時間目に事前テストを行い、事後テストの点数と比較し、効果を検証します。

② 2時間目から5時間目においては、物語を4つの場面に分割し、場面ごとに語り手の視点を変えて創作します。



③ 創作方略の授業を行い、語り手の視点を変えた創作活動について理解する機会を設定します。

④ 小集団活動では、他者と比較することで、根拠の明確性や心情表現の適切性を議論します。

## 2. 授業実践事例『セミロングホームルーム』

2023年6月に、本研究で開発した単元・授業デザインに基づき、『セミロングホームルーム（三省堂）』の授業を6時間行いました。私（竹内）からトリノ（鳥野）に視点を変えた創作活動に取り組みました。

② 瀬尾くんが最初からセミの存在に気づいていたことに驚いたトリノの心情を表現しました。

① 窓の外をちらっと見て咳払いをしている黒岩先生の様子や「先生から頼んだぞ。」と言われている気がした」という描写から、黒岩先生のメッセージを受け取っているトリノの心情を表現しました。

### 考えを表現する力

②

①

「座っていないぞ。鳥野。」事のでん末を知っている黒岩先生が妙な注意をすると、僕は人差し指でずれたメガネを直す、ようやく先生の言葉に従った。

えっ。瀬尾くん気づいていたの？僕は驚いて何もいえず呆然と立ち尽くしていた。

そのとき、瀬尾くんが初めて振り返った。瀬尾くんは僕を見たかと思うと、小さな声だったけれど、はっきりと、「ありがとう。」と言った。

僕は詰めていた息を大きく吐き出した。あー良かった、安心した。

僕は、左の窓をゆつくりと開け始め、静かに、静かに、自分の窓際の窓が開くように、窓を滑らせる。クラスのざわめきが消えない今がチャンスだ。僕は音を立てないように立ち上がり、瀬尾くんの背中にそろそろ手を伸ばし、止まっているセミを人差し指と親指とでそっとつまんだ。そして、光の速さで外に放り投げた。「ばいばい」と竹内が言った。途中まで身動き一つしなかったセミは、ジジッと鳴きながら遠くまで飛んでいき、その去り際の鳴き声はクラスの喧騒の中で無事にかき消された。

ここがチャンスだと知っている黒岩先生は「頼んだぞ。」と言う励ましのメッセージをくれた気がした。

黒岩先生は窓の外をちらっと見ると、咳払いをしながら教室の前に戻っていた。

本時の目標

場面④をトリノの視点に変えて創作しよう

物語の視点を変えた創作活動を通して、関連付け、変換の力を身に付けることができる。

私とトリノは驚いて何も言えなかった。トリノは立ったまま座れなくなっている。

握手でも交わしたい心境で詰めていた息を大きく吐き出したのだった。

先生から「頼んだぞ。」と言われている気がした。

### 根拠を明確にする力

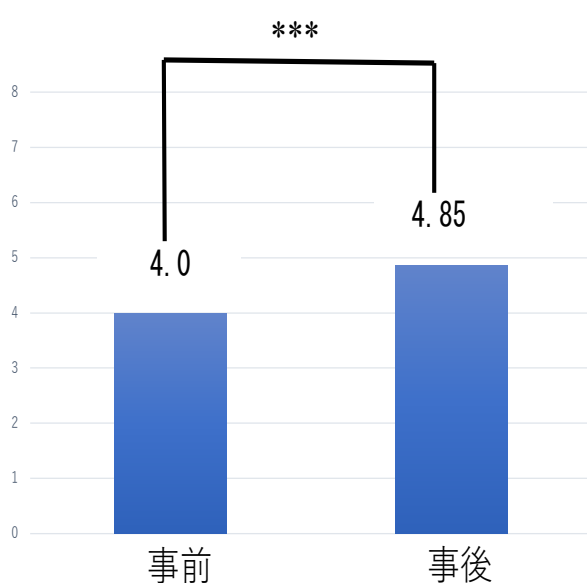
B 「私とトリノは驚いて何も言えなかった。」という叙述に着目しました。

A 「握手でも交わしたい心境で詰めていた息を大きく吐き出した」という叙述を根拠として、トリノの安心感を表現しました。

### 3. 評価方法・効果の検証—事前・事後テスト

事前・事後テストを行い、ルーブリックに基づき、点数化する中で、8点～6点を上位層、5点～4点を中位層、3点～2点を下位層に分類しました。事前・事後テストの得点の平均値を検討するために、 $t$ 検定（2つの平均値を比較する方法）を用いて全体と各層の平均値の差を比較しました。結果を見ると、全体では実践前の事前テストより、実践後の事後テストが0.1%水準で有意に高くなりました（ $t(75) = 3.85$ 、 $p < .001$ ）。この結果から、読解力が有意に高くなることが明らかとなりました。

測定対象	根拠を明確にして、自分の言葉で心情を表現する力			
時期	単元前「都道府県入試問題を参照した問題」 単元後「都道府県入試問題を参照した問題」（単元前とは異なる）			
方法	登場人物の心情を読み取る記述式の問題2問で構成されており、ルーブリックに基づき4段階で評価し、1～4点を配点した合計8点で前後の読解力を比較する			
ルーブリック	A	B	C	D
	文章中の根拠を関連づけて、自分の言葉で心情を表現している	文章中の根拠を関連づけているが、自分の言葉で心情を表現できていない	文章中の1つの根拠にしか着目できていない	根拠に着目できず、自分の言葉で心情を表現できていない



#### 結果

- ・語り手の視点を変えた創作活動を通して読解力が向上する。
- ・根拠を明確にする力、自分の考えを表現する力が高まった。

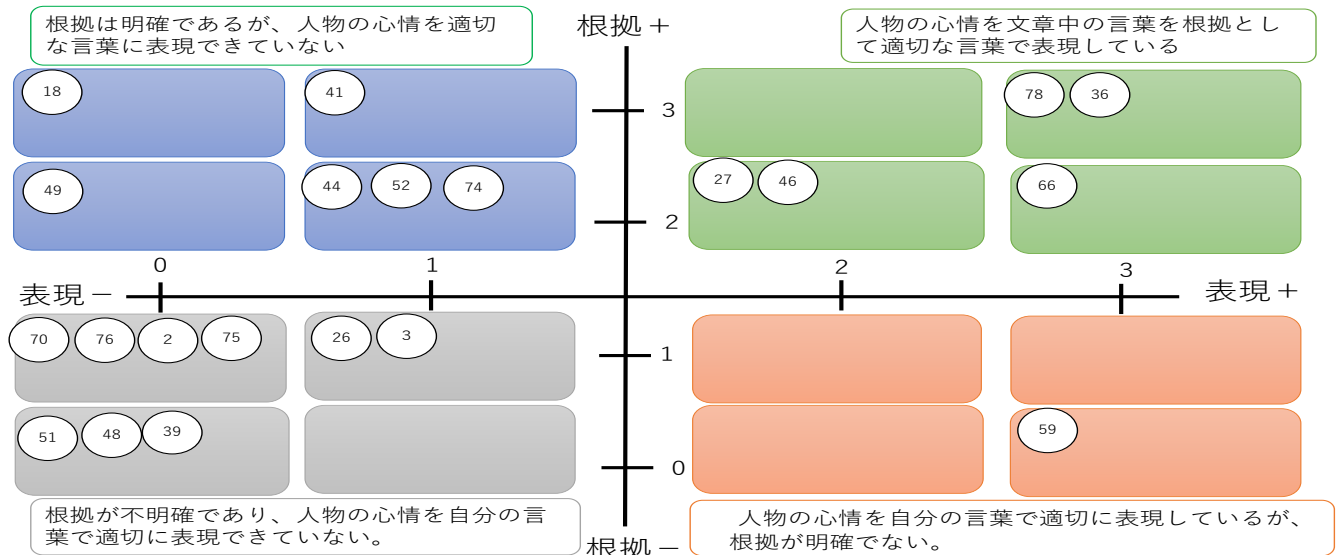
\*\*\* $p < .001$

## 4. 評価方法・効果の検証—創作ワークシート—

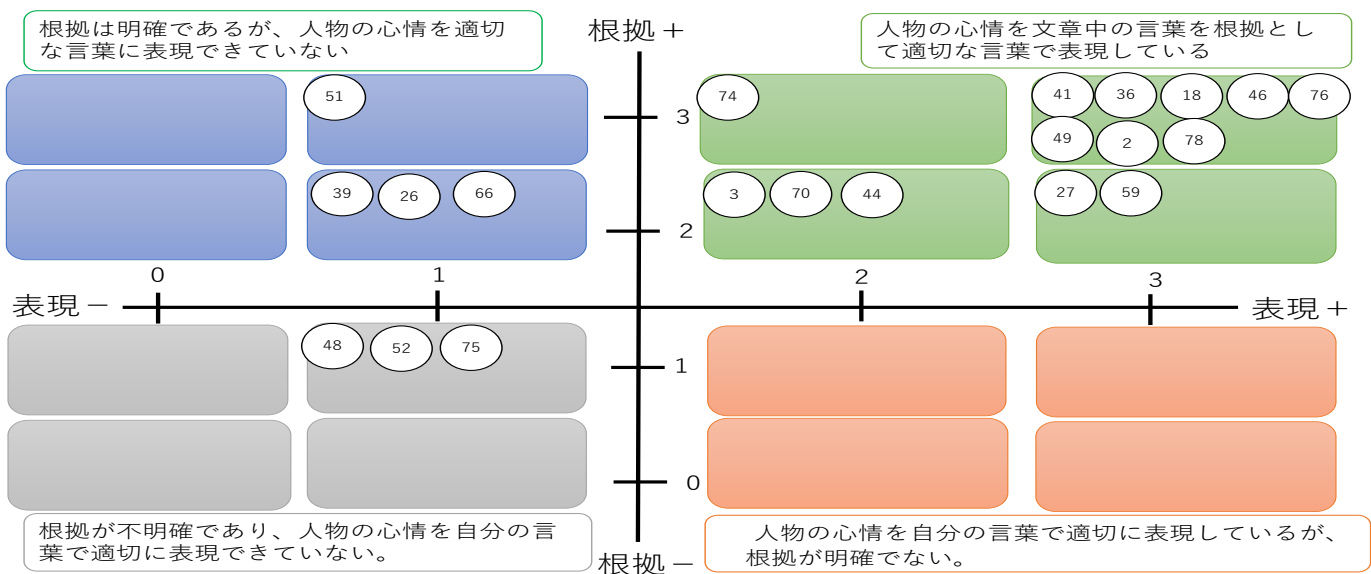
### 【(例) 中位層の変化】

授業で活用したワークシートを元に、縦軸を根拠、横軸を表現として示した測定表を用いて、「根拠を明確にし、考えを表現する力」を4段階で評価しました。

#### 【セミロングホームルーム2回目 (中位層)】



#### 【セミロングホームルーム4回目 (中位層)】



#### 【上位層】

2回目から右上に多くの生徒がいましたが、4回目では右上に約21%の上昇率が見られました。

#### 【中位層】

2回目は右上、左上、左下に分かれていましたが、4回目では右上に約43%の上昇率が見られました。

#### 【下位層】

2回目は左下に多くの生徒がいましたが、4回目では右上に30%の上昇率が見られました。

## 5. 成果と今後の展望

事前・事後テスト、創作ワークシートの測定結果を関連づけて考察したことを表にしてまとめました。全体的には、事前・事後テストの測定結果に表れているように、語り手の視点を変えた創作活動を軸とした本研究の単元・授業デザインによって、「根拠を明確にする力」、「考えを表現する力」、「物語の展開を理解する能力」が向上することが明らかとなりました。さらに本研究の内容を知りたい方は畠・石上（2023）を参考にいただければ幸いです。

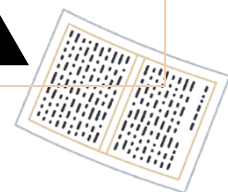
今回開発した単元・授業デザインを基に、さらに効果・効率的な単元・授業デザインを開発し、実践に取り組んでいきたいと考えています。

	上位層	中位層	下位層
根拠を明確にする力	的確に文章の叙述に着目することで、根拠を明確に持つことができた。 ◎	複数の叙述を関連づけることで、より明確に根拠を持つことができた。 ◎	協働学習により根拠を持たせた一方、根拠の見付け方に困り感があった。 ○
考えを表現する力	視点を変えることで豊かに心情を表現することができた。 ◎	自分の考えを心情として正確な言葉として表現できないこともあった。 ○	書くことに少しずつ慣れてはきたが、まだ抵抗感がある生徒が多い。 ▲
物語の展開を理解する力	物語の展開を踏まえながら人物の言動の意味を捉えることができた。 ◎	物語の展開を把握できず、適切に心情を表現できないこともあった。 ○	複数の人物同士の関係を捉えることに苦手意識を感じている。 ▲

【成果：◎ 成果&課題：○ 課題：▲】

### 【参考文献】

- ・阿部昇（2022）『国語力をつける物語・小説の「読み」の授業』
- ・畠宏樹・石上靖芳（2023）「読解力を目指した授業デザインの開発・実践—語り手の視点を変えた物語文の創作に焦点を当てて—」静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）第55号, pp. 102~113
- ・文部省 中学校学習指導要領（平成29年）「中学校学習指導要領解説国語編」



【発行日】令和6年3月11日

【制作】静岡県内中学校教諭

畠 宏樹

awenheart14@icloud.com

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻教育実践開発コース教育方法分野（教職大学院）2024年3月修了  
静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻教育実践開発コース教育方法分野（教職大学院）教授

石上 靖芳

ishigami.yasuyoshi@shizuoka.ac.jp